

ひまわり



令和2年6月15日(月)

心の豊かさ



庚申（こうしん）街道と近鉄南大阪線が交わるところで、祖父母がたばこ屋を営んでいました。北田辺6丁目になります。母の仕事の関係で、子どもの頃、長期休業期間中はそこで過ごしていました。当時、近鉄線は高架になっておらず、たばこ屋の前には踏切がありました。

朝と夕、祖母はコップに入れた水を踏切に持っていき、手を合わせお祈りをしていました。子ども心に「けったいなことしてるなあ」と思っていました。

「ここで事故に遭った人が、のどが渇く言うてるねん。ばあちゃんには聞こえるから、お水をお供えしてお経を聞かせてあげてんねん」と祖母は言っていました。後に考えてみると、信仰深い祖母らしい行動でした。また、見えないものを大切に作る祖母の心の豊かさであったのかもしれない。

以前、法事で京都のお寺に行った時、お坊さんが次のように説法されました。「暖衣（だんい）、飽食（ほうしょく）、命濁（みょうじょく）の世の中をどう生きるか。これは、溢（あふ）れかえる物質文明に生きる私たちに、仏様が出した宿題です」

暖衣は衣服に困らないこと。飽食は食に困らないこと。命濁は、もともとは命が短くなるという意味ですが、心の豊かさがなくなってきたことと捉えてほしいと言っておられました。

私たちの生活は、経済の発展とともに豊かなものになりました。今の日本に住んでいる限り、衣服に困ることも、食事に困ることもほとんどありません。しかし、心の豊かさはどうでしょうか。

私たちの周りには、いやな出来事がたくさん起こっています。お年寄りを騙す特殊詐欺、いじめ、ネットでの心ない書き込みなど。これらのことは、心の貧しさが広がる日本を象徴するものではないでしょうか。

私たちは、もともと人を思いやる優しい心を持っています。持って生まれた悪人などいないのです。しかし、個人主義が蔓延（まんえん）する中で、本来持っているはずの優しさや思いやりを、時として見失ってしまうことがあるのです。そうならないためには、物事を正しく見て、正しく考え、正しい行動を起こすように意識することが大切だと私は考えます。本日から、全員そろっての学校生活が始まりました。互いを思いやり、共に支え合い、楽しい学校生活をみんなで作っていきましょう。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

